

ボランティア便り

第1号 (年3回発行)

《2025年度通常総会》

2025年5月16日午前10時から約1時間、久留米市ボランティア連絡協議会の通常総会が開催され、前理事会が提案した事業報告・決算・事業計画・予算、それに加えて2年毎の役員改選では新理事・監査の提案がそれぞれ審議の末、承認されました。

2024年度事業報告

定刻通り飛永理事の司会で始まり、浦川会長の挨拶と新任の重石悟社協常務理事の挨拶を受けて、執行部が推薦する議長に藤野薫さんを選出の承認を得ました。

事務局の江上理事による昨年度の事業報告では、年3回予定だった交流学習会の経緯が述べられました。

7月12日の第1回目は梅林寺から悠江軒老師をお迎えしての法話を企画し、26団体52名もの参加が得られ、好評だったのですが、11月20日の第2回目的「皆さまと語りあいな

ら、ペーパークラフト」は、参加希望者が極端に少なく、中止せざるを得ませんでした。しかし、ボラフェス直後の3月14日の第3回目は、ボランティアの達人「牟田慎一郎氏の「ボランティアと異文化交流」人生を楽しむヒント」では、氏の長年・多彩な実践は、聴衆に教訓と感銘を与えてくれました。



ボラ連通常総会開催@福祉センター2階大会議室

これらの教訓から、お金をかけず、いかに多くの会員の興味を引く企画を練ることが、大切なことだと理事会で認識しました。

3月9日のボラフェスは、福祉会館と社協敷地を会場に開催され、当日は好天にも恵まれ、クロストーク、各団体の紹介と物販ブース、キッチンカーも加わり、多くの参加者は交流を深め飲食を楽しむことができました。

2024年度収支決算報告と監査報告

藤村会計担当理事による決算と大塚・中富監事による監査の報告がなされました。コロナ禍で中止されていた広がれボランティアの輪全国フォーラムへの参加では、開催地が仙台となつて、交通費・大都市の宿泊費が高み、2名の参加で予算をオーバーしたことが報告され、承認されました。

2025年度事業計画案

引き続き市内のボランティア活動を盛んにするための魅力ある企画立案・事業と年3回のボラ便り発行の広報活動が提案され、了承されました。

2025年度収支予算書案

今年度から赤い羽根の共同募金の収益から配分されている社協から当会への補助金11年30万円は、当会の収入の約7割にも当たりますが、募金の減少から20万円と1/3カットさ



2班では、それぞれ活動が異なる中で「高齢者のお出かけ対策について話し合いました。高齢者が増える中で民生委員やふれあいメンバーの人手不足という、地域の厳しい実情も挙げられました。孤立を防ぐためにも、一歩外に出てもらう、そして「いきいきサロン」「認知症予防カフェ」等を知ってもらい活用して欲しいとの声もありました。社会参加を通して元気な高齢者が生活出来るよう、他団体との繋がりを感ずる交流会でした。



3班では、課題1は、「会員の減少/役員の成り手無し」↓自分団体のチラシを、「常時携帯し、周囲に配る。」「他団体の催しに、積極的に参加する。」「退会した元会員を訪ねる。」「他団体と連携する」など話し合いました。
課題2は、「活動費確保困難」↓他の補助金探しを、継続する。」「講師依頼は、市の、出前講座の活用。」「他団体と、連携共催する。」「課題3は、「活動企画が、乏しい」↓「他団体と連携して、企画する。」「市、社協、みんくろ、えーるピアなどと、接触。」「ボラ活動に、「C」を、導入活用して、新領域活動の幅を拡げる。」などでした。



4班では、ボランティア活動での問題や課題・良かった事について話し合いました。「昨年、入会者の半数以上が退会された。」「会員が集まらない。」「お弁当を作る場所がなくなりスーパーのお弁当を購入して配布している。」「又、配送するドライバー不足。」「人手不足。」「物価は高騰して利用者の負担増額が難しい。」「など皆さんと同じ悩みで苦労されています。人との繋がりが広がり、ふれ合う事の大切を考えさせられました。

れました。そのため、費用弁済を始めほぼ全項目の減額を余儀なくされました。全国フォーラムへの参加も1名に絞りました。また、従来からの議論で、3万円から半額に減額されてきた筑後川花火を見る会への補助金提供は、この期に廃止することが了承されました。

役員改選案

今年度は役員改選の年です。本会規約の「任期は2年とする。再任は妨げない。」に基づき、前理事会から理事2名の退任と新理事候補2名の追加で、合計理事9名と監査2名の推薦案が提示され、了承されました。

役職として、浦川会長・藤村会計担当・江上書記の留任と飛永副会長、新規に牟田広報担当の5名で事務局を担うことになりました。

《第1回交流会・ワークショップ》

今年度第1回の交流学習会は、好評だった2024年3月10日に続いて2回目のワークショップを開催しました。

参加者22名が5、6名の班4つに分かれ、話すテーマは「他団体との連携の場作り」でしたが、お茶とお菓子をつまみながら、自由に語ってもらいました。大概のボランティア活



第1回交流学習会 ワークショップ

動は、自他とも為になる楽しい反面、会員の高齢化と減少・資金調達難に加え、未だにコロナ禍の負の影響が続いており、悩ましいことも多いのが実状です。
1回のワークショップで課題解決することは少ないでしょうが、他団体の実状や取組がヒントになることもあるでしょう。

1班では、ボラ活動をして良かったことが、次々と列挙されました。そして、体力低下や若手が参加してこないなどの問題点を挙げ、解決のための課題「広報不足、後継者育成、持続



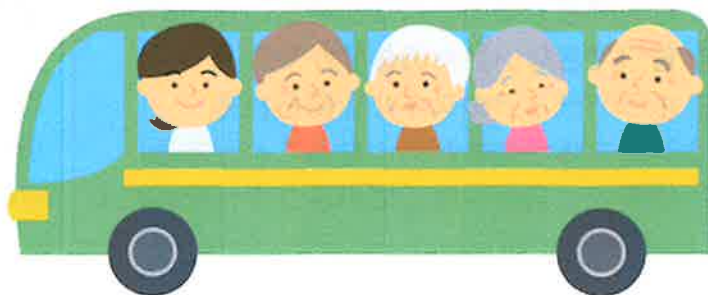
的な資金調達などが挙げられました。

- 【希望するテーマや企画】
- ・若者や外国人、多世代交流のお祭り
 - ・地域支え合い活動が大きな課題となっ
 - ていますが、「各ボラ団体やふれあいサ
 - ロン」と「認知症予防カフェ」の連携を
 - どうするのか？
 - ・ふれあい委員↓民生委員↓地域包括
 - の円滑な情報伝達を更に強化して、引き
 - こもり対策を宜しくお願いします。
 - ・会員を増やす方法。
 - ・今日のような交流会をまたもってもら
 - いたい。
 - ・団体活動の報告会
 - ・会員を募集する手だてや企画等、なん
 - でも出来る事があれば、したいです。社
 - 協の知恵もどんどん教えてほしいです。
 - ・製作活動
 - ・活動者を増やすための具体的な取組を
 - 考える。
 - ・貧困世帯や高齢者に各種障害を持った
 - 家庭についての問題。
 - ・エンパワーメントをひきおこす方法。
 - ・ボランティアにおける「エイアイ」
 - 活用法。

- 〈希望する研修先〉
- ・久留米以外のボランティアセンター
 - ・どこでも〇ス。
 - ・宮ノ陣クリーンセンターや鳥栖クリー
 - ニングセンター等、環境保護活動の見学
 - など。
 - ・各種福祉施設
 - ・久留米市の被災地（田主丸、草野、大
 - 橋など）



バス研修旅行



- 【社協バス研修旅行の希望調査】
- 現在社協は中型（定員39名）とマイクロバス（同25名）2台の福祉バスを運用しております。これらのバスは、福祉目的で日帰りであれば、ボラ連も活用することができま
- そこで今回のアンケートでは希望の有無・季節・研修先を問いました。その結果、希望者多数につき、今年度第2回目の交流学习会として、理事会はこの秋にバス研修旅行を企画することにします。
- 〈希望の有無〉 回答数 17
- | | |
|-------|----------|
| 希望する | 12 (71%) |
| 希望しない | 4 (24%) |
| 無回答 | 1 (6%) |

なお、当日用意されたお菓子やパン・ジュース・スキムミルク等は、ZOO 法人フードバンクくるめから提供されたもので、その多くは流通や消費の段階で廃棄される運命にあったものです。

こうして多くの善意で集められた食品は、必要とする世帯に優先的に届けられると共に、支える側の人々を支える「互いに支え合う地域共生社会」を目指す活動にも活用されます。



- 【感想等】（アンケートから）
- ・他の団体のことを知ることができました。各団体同じような課題があることがわかりました。
 - ・色んな団体を知ることが出来て良かったです。
 - ・全く活動が異なる中で、「高齢者」そして「お出かけ」が共通のテーマとなった。
 - ・各活動での問題点が明確になり↓課題↓対策のまとめができて良かった。
 - ・「笑顔、仲良く、はいいい」（原文ママ）という考えこそ若い世代にとっては偏見であり、負担になっていなか、と感じた。
 - ・様々な立場の方たちの話を聞くことができて、有意義な時間を過ごすことができた。
 - ・今回全然お会いした事のない団体さんとのワークショップでいろんな問題点を、取りくみを知ることが出来たのは良かったと思います。
 - ・4つのグループに分かれ、それぞれの考えをまとめて発表してもらい、いろんな知恵がだされて、おもしろかった。参加者で、知らないグループの方がおられて、視野が少し広がった。もっと話して仲よくなりたいし、それぞれのグループの活動ももっと知りたいと思いました。

- ・自分の班はなごやかにいろいろな話が出て良かったと思う。それぞれの移管を通して、今後の活動にも少し、また、がんばろう。
- ・参加できて良かったです。各々の地域のボランティア活動の内容を聞くことができたこと。
- ・寸時のうちに打ち解けて日々取り組んでいる一部を紹介することができたこと。
- ・実には和気あいあいとした楽しい時間を過ごさせていただきました。他のグループの方へも質問を沢山して、興味がわきました。
- ・他のボランティアをされている方との交流、意見を聞くことができて、貴重な時間でした。
- ・他の団体の活動の様子も分かり、参考になった。やりがいや悩みは一緒だった。
- ・他の活動の悩み、課題が聞けて良かった。広報・連携方法などひらめきが有った。
- ・他団体との関わりを持って大変有意義でした。ボランティアに対するいろいろな考えを勉強できたことが良かったです。
- ・色々問題がある団体があり、非常に参考になりました。
- ・とても有意義なワークショップでした。ありがとうございます。国際ボランティア学生協会（IVUSA）の幹部の方などが同席していて、共助に関する様々な角度から有意義な意見交換（災害の規模や種類、地域性、被災者の状況）ができました。

ボランティア活動のまとめ

ボランティア活動の 基本原則

- ① 自らすすんで行動する
- ② 共に協力し、共に学ぶ
- ③ より良い社会を目指す
- ④ 見返りを求めない

ボランティアの種類

- ① 地域コミュニティ運営ボランティア
- ② 災害ボランティア
- ③ 海外ボランティア
- ④ 自発的な小さな社会貢献や他者貢献

ボランティアの探し方

- ① 自治体の福祉協議会に問い合わせる
- ② 市役所や図書館の掲示板で探す
- ③ 家族や友人知人から情報を得る
- ④ インターネットで検索してみる

シニアボランティア参加の 注意点

- ① ボランティアにおける協調性
- ② 親切の押し売りはしない
- ③ 感謝の言葉を期待しない
- ④ 体調を考え、無理をしない
- ⑤ 自己犠牲の生じない範囲を守る

ボランティア活動のメリット

- ① 達成感や充実感を得ることができる
- ② 活動を通じて知人友人ができる
- ③ 社会問題やその改善などの気づきがある
- ④ 普段できない数々の体験ができる
- ⑤ ボランティアのスキルを得られる
- ⑥ 活動自体が生きがいとなることがある
- ⑦ 結果的に自分や周辺に小さな幸せを作れる

シニアボランティア活動のメリット

- ① 人様の役に立つことの満足感
- ② 生き甲斐や充実感を得られる
- ③ 自己肯定感向上や存在意義の確認
- ④ 心身の健康維持に繋がる
- ⑤ これまでの経験や知識を活かせる
- ⑥ 交友関係が広がる
- ⑦ ポイントや手当もあることがある